

発掘された総の国 in 柏・流山 特別企画展示

旧石器時代の道具

— 柏市屋敷内遺跡 —

展示期間：
令和3年2月9日から半年間

展示場所：
さわやかちば県民プラザ2F
さわやかコーナー

2F



屋敷内遺跡の発掘調査は平成12年に始まり、今まで41地点の調査が行われ、現在も調査が続いています。このうち第1回から第34回までの発掘調査報告書がこのたび刊行となり、旧石器時代から中・近世に至る、長期間にわたる様々な人々の営みの跡が報告されています。

ここでは、屋敷内遺跡の旧石器時代に焦点を合わせ、当時どのような道具(石器)が使われていたのか、また石器を作るための石の割りかた、そして材料となる石はどこから持ってきたか等の資料を展示しました。

皆様もこの展示を通じて、旧石器時代の人々の技術力の高さをご覧頂けたらと思います。

○接合資料って何？

接合資料とは旧石器時代の人々が打ち欠いた石を、パズルのように元の形にしたものです。石器の材料に適した石のかけらをとるには、どこをどのように打つかを熟知していないといけません。当時の人々は石の性質をふまえて石器作りをしていました。

接合資料からは石の割りかたがわかるだけでなく、もとの石の大きさや、どこで手に入れた石なのかなど、いろいろなことを私たちに教えてくれます。

○いろいろな石の道具

私たちの暮らしのなかで必要な、ものを作ったり切ったり削ったりする道具は、ほとんどが金属でできています。当時は金属を知らない時代なので、生きるために必要な道具は石を材料にして作りました。

展示してある石器は、ほとんどがけものを捕る時に使ったやりの先です。なかには「細石刃」という、小さなカミソリの刃のような石器もありますが、先をとがらせた木や動物の骨に埋め込んで突き刺したり切ったりできた、万能ナイフのような石器もあります。

○石器をつくる石はどこから？

私達の住む千葉県では、石器の材料になる硬くて割れ口の鋭い石は、ほとんど手に入れることができません。そのため石器製作に適した石は、多くが関東平野を取り巻く山地でとれたものや、山地から流れ出た川によって運ばれた川原石が使われています。交通手段が自分の足しかなかった当時の人々の行動範囲には驚くばかりです。

ご質問・ご要望は
千葉県教育庁 教育振興部 文化財課
柏の葉分室 04-7140-8657まで